

としょかんだより



No10

1990年7月

目次

研究用文献の保管について……………	教育学部教授	糸山東一……………	1
タゴールの思想……………	法学部教授	吉川弘人……………	2
私の文献検索……………	経済学部教授	大藪和雄……………	3
カリフォルニア大学図書館事情……………	農学部助教授	片岡郁雄……………	5
図書館の周辺……………	商業短期大学部講師	池端忠司……………	5
私の図書館利用……………	法学部3年	藤岡江理香……………	6
ブラジルの図書館との違い……………	大学院農学研究科	小野美佐雄マルコス……………	7
図書館を利用して……………	商業短期大学部3年	川東好……………	7

<図書館からのお知らせ>

大型コレクション案内……………	参考係……………	8
附属図書館開館予定……………	閲覧係・農学部分館事務係……………	8

研究用文献の保管について

教育学部教授

糸山東一

情報化時代の今日、数多くの研究情報が巷にあふれているとき、二次資料のコンピュータ検索により全国的あるいは世界的規模で研究用文献が求められるようになってくるとき、各教官、各教室

が研究費で購入する研究用文献の保管について感ずることがあります。

私が学生のころ、昭和30年前後、研究用文献は各学科の図書室に保管されており、顔見知り同志が和気あいあいの雰囲気なかで文献調べをしておりました。修士課程を終えるころ、学部図書室ができ、理学部全学科の研究用文献が集中されました。顔見知りが少ないという不便な面もありましたが、学部が集めている研究情報が自由にみら

れる点で助かることがありました。

香川大学に赴任し10年くらいたって母校の図書館を尋ねましたら、数学部共同の図書館になっておりました。学科→学部→数学部共同利用の経緯を肌で感じました。

院生のころ、化学専攻の関係で農学部農芸化学、林学、工学部応用化学、医学部薬学科の図書室へ出向き、それぞれの学科の歴史と伝統を感じつつ、文献調べをしていた頃がなつかしく思い出されます。しかし、現在はコンピュータを介する情報化時代、昔は数週間、数ヶ月はかけていた研究情報調べも、現在は上手にやれば一瞬にできる科学文明の時代になりました。

自然科学の世界は無機的というかドライというか、研究情報の収集はメカニカルになりつつあります。機器の力を借りて集めた研究情報をよりどころにしつつ、計測結果をつぎ足し、より高度の研究情報を作り上げていく過程、これが科学の進歩の原動力になっていると思います。

化学教室の図書室にいくばくかの研究用文献を置いています。これらは専攻分野の基本文献という視点から永い間かかって集めているものです。研究領域は細分化され、専攻分野の基本文献では間にあわなくなり、個人で購入している状態です。

研究用文献の購入方法はさておき、全学としての研究用文献の運用と保管については、十年に一回ぐらいは研究してみる余地はあるように思われます。私の僅か30年足らずの研究生生活の中で肌にした研究文献の調べ方の変化は、大学の発展の一側面あるいは科学の発展の一つの見方を指すことかもしれません。また、私がいま思っていることは、自然科学専攻者の無機的な発想に原因することかもしれません。



タゴールの思想

法学部教授

吉川 弘人

タゴール（1861～1941）は近代インドの生んだ詩聖であり、偉大な思想家である。7～8歳ごろより詩作を始め、15歳で詩集を処女出版して以来81歳で生涯を閉じるまで無数の名作を残した。

ベンガル語で書かれた彼の詩は、叙情的な美しい表現とリズムをもつだけでなく、自然の中にも人間の日常生活にも普遍的な創造主の存在を認め、神と自然と人との調和を高らかにうたい上げている。中でも、49歳の時の詩集「ギタンジャリ」は、自ら英訳したものが世界的な名声を得、これによって1931年遂にアジア人として最初のノーベル文学賞を受賞した。また、インドや世界各国の政治運動や体制についても積極的な発言をなし、彼自身の世界観・人生観に基づく心理と平和の具現に努力した。

タゴールによれば、神は休みなく人間に生命を注ぎ、人間を通じて神の意志を実現しようとしている。人間は神の分身であり、小宇宙である。

タゴールは親鸞と同様に、人間の悪しき思想を否定するのではなく、それはそれとして人間に対する限りない愛情の実践によって人間の悪しき思想を克服し、これを乗り越えて神の国を実現することが可能であると考えたのである。そして、当時の帝国主義と闘い、インドの独立運動に身を持って参加した。

タゴールは、神が人間に生命を注ぎ続けてもなお充たされる余裕があるのが人間であると考えた。すなわち、神そのものにはなり切れない人間が限りなく神に近づくには、人間の悪しき思想についてはこれを克服するために神の限りない愛情をもって人間に働きかけなければならないと考えた。世界の恒久平和、核の廃絶が実現できるかどうかの選択は神により人間に委ねられている。あくことのない実践活動なくして、人間が神の国を実現し、人間が神のレベルまで純化されることはないと考えた。